

●會費領收

大正元年度分

江崎 やす 貴田 なほ 三輪田 秀

大正二年度分

三輪田 秀 白鳥 寛 富岡 きぬ
井淵 英 島津 みち 田中 元惠
土屋 つね 青山 ハナ 伊地知 あぐり

大正三年度分

村田 よしを 江崎 やす 貴田 なほ
半田 たま 清水 俊尾 今泉 うた
本多 ひさし 穂積 ざん 江口 折江
井淵 英
なほ會費未納の御方は早速御送金相成度願ひ上
げ候。(本校内研究科 竹田みち宛にて)



◎母校たより

○九月

六旬の休暇も終はれば、ここに十一日、始業式は擧げられて、我江山の洵美に酔ひし數百の游子は再學窓の下に孜々勉學の人たるべく相成申候。この席上、吉田熊次先生と告別のこと有之候。校を擧げて崇敬措かざりし先生の今や母校を去りて世界漫遊の途に上られむとする事は

佛國の富豪カーン氏が志に出づ。私情忍びずと雖、博識達見の先生が世界の平和のために貢献せられむことの必ず多大なるべきを思へばまた自ら慰むるところ可有之候。加ふるに後任としては深作安文先生を迎ふるあり、我等は安んじて道徳に對する立脚地をもとむべく候。なほ本學期に入りて体操に高橋先生を迎へ申候。こゝにまた特筆すべきは西校捨取壊しの事に候時の 皇后陛下行啓のもとに開校式を擧げ、殆

四十年に垂んとする光輝ある歴史を有する、我尊敬すべき西校舎は、今や老朽事に堪へずこの理由によりて、こゝに取壊しの運命に遭遇したるに御座候。今やその木材は、恰も護衛者を失ひたるが如くに孑然として立てる講堂前に積んで山をなし居り候。諸姉が感想果して如何。さはれ徒らに悲しむをやめよ。これ我校歴史の四十年が生み出でたる、名譽ある事件に非ずして何をや。しかもまた忘れ給ふ勿れ本校東校舎應接間を訪ひ給はゞ模型として存せられたる、愛す可き彼が風丰に接するを得可き事を。母校が發展はこれのみに非ず、第一第二はたこれが分舎さへ狹隘をつげ、つひに本郷森川町に地を下して更に第三の寄宿舎さへ設けられ候。然れどもこれをして無意味のものたらしめざらむとするは、かかつて我等が双肩にあり、我等が責任亦輕からざる事に候。こゝに悲しさの限りに候ひしは武田先生が御計音に候。先生が本校否世の女子教育のために、數十年來貢獻せられし功績の偉大なることは、

我等夙に欽仰措かざる所に有之候。宜なるかな事天聽に達するや、位を進め、勳章を賜はるること有之候。世を去り給ひしは八月二十九日、御葬儀は九月二日、在京卒業生及生徒は雨を衝いて最後の御訣別致し候。會を開いて我等が追悼の微衷を致ししは九月二十日、今や再びかの温容に接せず、今また新なる涙止めあへず候。○十月 四日には郊遊會として群馬縣金山に遠足いたし候。赤城榛名、さては日光の山々をめぐらし點々たる村落を一眸の下に集むる山頂の風景は今なほ忘れがたきものに候。且この地の新田義貞、高山彦九郎等勤王志士の史蹟に富めるは、諸姉のすでに熟知せらるゝ如くに候。六日、かねてより計畫せられたる購賣部開始せられ候。花の寮階段下に一區劃を施して賣場とし、生徒輪番に事に當り居り、日に好結果を擧ぐるものの如く候。十三日には文科三年生日光旅行有之候。滄々た